

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （マネジメント）	氏名	塩 見 浩 介
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目			
コスト低減を志向する部品共通化技術における試作費コントロールプロセス			
論文審査担当者			
主 査	教 授	星 野 一 郎	印
審査委員	教 授	椿 康 和	印
審査委員	教 授	村 松 潤 一	印
審査委員	教 授	浅 田 孝 幸	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>申請者である塩見浩介による学位請求論文は、上記表題の通り、製造業における重要なコスト要素である試作費を低減するために、部品共通化を進捗させることにより、試作費のコントロールプロセスを、先行研究を踏まえながら、現場等を調査の上、究明したものである。</p> <p>また本論文では、自動車産業を念頭に置いて執筆されているものであるが、それに類似した組立型製造業に関して、ほぼそのまま当てはまる汎用性と独創性の高い結論を導出している。</p> <p>本論文では設計的視点において製品開発工程から生産ライン試作検討完了までの部品共通化プロセスを研究対象としており、会計的視点については、部品共通化プロセスにおける共通部品設計プロセスに直接関係するであろうコストに焦点を当てており、大量生産計画における工場の立地条件や、会計処理上の製品の売上げや利益等についてはまでは考慮していない。</p> <p>本論文の結論そしてオリジナリティーがある点は、自動車等の組立型製品においてコスト低減を志向する部品共通化技術によって理論的に影響を受ける重要なコストは試作費であり、そのコントロール技術を明らかにしたことにある。</p> <p>本論文においては、コスト低減を志向する部品共通化によって理論的に影響を受ける重要なコストは試作費である事を指摘し、設計的な要点は部品流用化率に影響を与える部品の固定と変動を定める部品整理基準であると指摘している。先行研究そしてそこでの概念や手法を援用しながら、現代の自動車産業における「コスト低減を志向する部品共通化技術における試作費コントロールプロセス」に関する研究そして実践に対して大きな貢献をなしうるものと評価できる。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

試験の結果の要旨

報告番号	広大 第 号	氏 名	塩 見 浩 介
試験担当者	主 査	教授	星 野 一 郎 印
	審 査 委 員	教授	椿 康 和 印
	審 査 委 員	教授	村 松 潤 一 印
	審 査 委 員	教授	浅 田 孝 幸 印
<p>試験の結果の要旨</p> <p>申請者である塩見浩介に対し、平成 26 年 2 月 6 日、論文の内容及び関連事項に関する本人の学識等について、試験を行った。</p> <p>冒頭においては公開の上で、塩見浩介から論文の概要と論点等を論文の目次に沿った説明と学術的又は実践的なオリジナリティーについての説明があった。</p> <p>その後は、非公開の上で、試験担当者が塩見浩介に対して質疑応答を行った。主な質問事項は次のとおりである。</p> <p>管理会計チェンジ（研究）における制度的枠組みとその影響、法制度と会計制度における制度的相違、制度の改変による影響、アッシとパーツの区分とその理由、サプライヤーとの関係、原価企画との関係、部品共通化技術論としての認識、試作費コントロールの重要性、製造原価との関係、部品共通化による成果とその測定、企業の変化とパフォーマンスの関係、技術トレンド管理の意義、そして、参考文献への記載内容や表記形式など、多岐に渡る質問が出された。</p> <p>これらの質問等に対して、申請者である塩見浩介は的確な回答と補足説明を行ったものと認められる。</p> <p>また今次の試験においては、より専門性が近い浅田孝幸も参加し、試験審査上の合理性と客観性を担保した次第である。</p> <p>以上の結果、本人は学位を受けるに必要な学識を有するものと認め、試験担当者は一致して最終試験に合格と判定した。</p>			

備考 要旨は、400 字程度とし、試験の方法も記載すること。